

三つの大震災をふり返い今後の防災を考える

一昨年は関東大震災の90周年。今年は阪神・淡路大震災の20周年です。十年一昔といいますが、4年前の東日本大震災を経て、阪神・淡路大震災の記憶ははや薄れかけているかの感があります。しかしながら、20年というのは災害という現象を捉える時間の流れからいえば、つい最近の出来事というべきです。

本記念シンポジウムでは、地震時における都市火災のリスクが現実のものであることを知らしめたこの大震災の記憶や教訓を新たにするとともに、関東大震災、東日本大震災を加えた三つの大震災について、3人の専門家から報告をいただき、近い将来起きる可能性のある東海・東南海・南海地震や首都直下地震などに備えるために、フロアを交えて討論を行うことにより、大規模地震被害(とくに火災被害リスク)軽減の課題について考えたいと思います。

関心のある多くの方々の参加を期待しています。

東京理科大学大学院 国際火災科学研究科(主催)

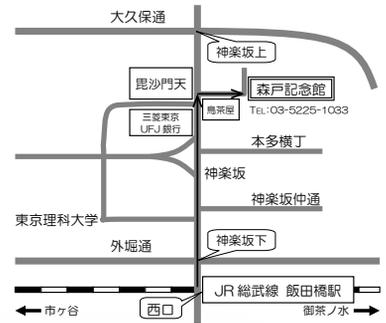
■日時:平成27年3月2日(月) 13:30~17:10

■場所:東京理科大学 森戸記念館 第1フォーラム

最寄駅 JR飯田橋駅 徒歩5分

■お申込み:名前、所属、メールアドレスを明記の上
(sekizawa@rs.kagu.tus.ac.jp) 関澤宛まで

■参加費:無料(定員100名 申込み順)



プログラム

- 13:30-13:40 開会の辞 (藤嶋 昭 東京理科大学長)
- 13:40-13:50 趣旨説明
(辻本 誠/東京理科大学 国際火災科学研究科教授)
- 13:50-14:30 関東大震災 ~映像記録から見えてきたもの~
(西田幸夫/埼玉大学 特任准教授)
- 14:30-15:10 阪神・淡路大震災 ~現代の都市における地震火災リスクと対策
(関澤 愛/東京理科大学 国際火災科学研究科教授)
- 15:10-15:50 東日本大震災 ~巨大広域地震災害に対して私たちはどう向きあえばよいのか
(山崎 登/NHK解説員/東京理科大学 国際火災科学研究科客員教授)
- 15:50-16:00 休憩
- 16:00-17:00 総合討論(パネリストとフロアを交え)
まとめ(小林恭一 国際火災科学研究科教授)
- 17:00-17:10 閉会の辞
(池田憲一/東京理科大学 国際火災科学研究科教授)

司会 小林恭一